

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ミライク岡山南教室 (IT療育型 放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 6日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 39人	(回答者数)	37人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	IT療育特化型の事業所であり、子供達の生きがい等の余暇活動及び、進路や将来の就労等に繋がるような支援を行っている。 個々に合ったスキルを身に付ける事で、精神的及び、経済的自立に繋がる療育を提供している。	進路や就職等を見据えて、タイピングやプログラミング等、個々の進捗や興味、関心によって調整や変更して課題を提供している。タイピングはホームポジションで入力できるように力を入れて指導している。 一人一人の特性とスキルに合わせて職員は肯定的な言葉を使って声かけを行っている。	毎日10名来所する子どもは違う為、一人一人にしっかり向き合った関わりをしていきたい。 小学校高学年のプログラミングが得意な児童や中学生～高校生の利用者に対しては課題をプログラミングからアルゴリズムやワード等へ移行し、より将来の就労を意識した取り組みをしている。 新たに必要と考えられる教材等の導入の為に、定期的な研修及び、個々の進捗度合いや方向性も踏まえた課題検討や教材研究を行ってきたい。
2	敷地内の駐車場のスペースが広い為、屋外での運動活動や様々な遊びが可能である。	切り替えが難しい子どもも多い中で、外での活動が可能なことは気分転換が気軽にでき、室内だけで過ごすより、ストレスも溜まりにくく発散しやすいことが事業所の強みと考えられる。 道路側にネットを張って路上への飛び出し防止や、職員の配置と車の出入り時の注意喚起等、子どもの安全面を考慮して支援に当たっている。	体を思いきり使って遊ぶことはできるとはいえ、制限も多くある為、子ども一人一人のやりたい遊びや活動が可能な限りできるように、事前にルールを決めたり注意喚起や説明をしたりするほか、ネットを張る等、十分な安全対策も含めた取り組みを徹底していきたい。
3	祝日のイベント活動では室内外で様々な体験や社会見学等、幅広い内容の活動プログラムを盛り込んでいる。	外出や創作活動等様々な経験ができるよう計画している。 子ども達や保護者の意向、要望も取り入れて計画に反映するために、イベントについてのアンケート等を実施した。 毎回職員間でのミーティングを重ねており、外出プログラムのイベントでは必ず事前に下見を行っている。 年に1度は日々のIT療育の成果として、プログラミングを作成したり、保護者に披露する機会を設けている。	今後も利用する子どもや保護者の意向、要望も取り入れて計画に反映するために、イベントについてのアンケート等を実施したうえで検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	IT課題について直接指導に当たる職員の人数も限られており、IT課題以外の情緒面や行動面での個別支援を要する児童への対応できる専門職(心理、OT等)の配置を希望する。	取り組む課題数としては妥当だと思うが、長く通っている児童を中心に課題内容のマンネリ化が懸念されるので、興味を持って取り組むことができるように、新しい課題や教材の導入等の検討が必要。	児童の年齢や技術の習得具合を考えながらそれぞれに合った課題の設定が必要。新しい教材を本屋、またはネットで見つけたりするなど興味関心が続くように工夫をする。
2	PCを扱う設備環境や支援に当たる職員の人数の関係もあり、受け入れ児童が限定的になりやすい。	パソコンを扱っている都合上、身体面及び情緒行動面での特性の強い児童などの利用は難しい。	これまでに身体的な障害を持つ児童や、行動特性の強い児童の問い合わせも利用開始する児童は実際にはいなかったが、問い合わせ時や、見学、体験時の様子も踏まえ、保護者との面談で十分な趣旨説明による理解のうえ、利用についての判断をしている。
3	保護者や家族間同士での交流やイベントの機会が少ない。 地域の子どもや住民との交流機会も少ない。	これまでに親子が参加するイベントは何度かあったが、少ない職員数で日常の業務に追われ、保護者同士や兄弟間の交流の場を設けることは難しく実現できなかった。 さらに、近隣には幼保こども園や県内でも児童や生徒数の多い小中高校が隣接する学区内に位置し、住宅地内にある事業所であるものの、近所や地域との交流が少ない。	保護者へのアンケート等を行い、意見や要望をもとに、今後は親子参加のイベントや、保護者が集まる機会を設けての座談会等、意見交換や交流の出来る場を提供できるよう検討していきたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ミライク岡山南教室 (IT療育型 放課後等デイサービス)				公表日	令和8年2月28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		パソコンのスペースと勉強や遊びのスペースを分けている。 個別対応又はグループワーク等の時は2階の相談室を使用する事がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		それぞれの役割りを把握して指導にあたり、利用者一人ひとりの課題に取り組めるよう努めている。	時と場合によるが、少なく感じることもある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・2階を事務室及び相談室にしており、職員は向かい合うよう配置している。 ・事業所は賃貸の為、大きく改修等することは難しいが、過ごしやすいよう工夫はしている。	バリアフリーになってはいるが改修は出来ない為、身体障害等のある子どもの受け入れは今のところ難しい状況。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		余暇、課題をする子が同室にいるため気が散りやすい場面もあるが、2階を活用する等工夫はしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		課題のスペースと静養スペースは仕切り等で、分けた方がいいと思うが構造的に難しい。どうしても集中できない子どもは2階で宿題ができるような配慮はしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	5			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	外部コンサルタントに依頼している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		定期的にFC全体での研修及び事業所内研修を実施しており、外部 (行政、リタリコ等) による研修やセミナー等にも参加・受講している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		HPに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		一人について現場で支援を行う職員全員がモニタリングを記入する事で、多角的に子どもの現状について把握できている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		決められたツールはないが日々の様子で気になったことはその日のうちに他の職員や保護者に共有し、必要であれば書面にて記録している。活動プログラムは習慣づけや技術習得の為にある程度固定しているが、個々のスキルやコンディションに合わせて柔軟に対応している。祝日は社会勉強を兼ねての外出プログラム等を組み、普段経験できないことを取り入れている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援計画の各項目に沿って個々の課題や目的、支援内容を反映させている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		定期的にミーティングを行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・常に子どもについて気軽に共有できる関係を築くことができている。課題については固定化したうえでプラスアルファの変化を持たせていくことで、個々の進捗やニーズに合わせている。 ・通常の活動 (課題) に関しては習慣づけや技術の習得の為に固定化している部分もあるが、個々のスキルやコンディションに合わせて柔軟に対応している。祝日や長期休暇中には社会勉強も兼ねての外出プログラム等を行い、普段経験できない事を取り入れている。	IT課題での難易度等の変更は個々のスキル等に応じてその都度行っているが、新しい教材の検討も必要と思われる。日々での個々の状況を踏まえ検討しながら、今後も集団の中の個別性も考慮した支援を展開していきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		午後の送迎までの昼礼等でその日の利用者や送迎等に応じて必ず実施するようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		連絡事項は終礼等で共有している。気軽に話せる関係性が職員間で築けているので、その他の時間でも子どもの様子、療育のすすめ方等を共有することができている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		個々の能力に応じて難易度の高い課題に変更したり、個々の状況を見ながら対応している。また年齢や特性に応じてグループワークを行いコミュニケーション力の向上、ルール理解、感情のコントロールの育成に取り組んでいる	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年毎にモニタリングを行い、年に1回は計画の見直しの為にアセスメントシートを更新し、保護者には要望や意見等について書面や面談等で確認している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5		どの基本活動もバランスよく取り入れていけるように努めていきたい。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		担当者会議は学校での開催で、午後の放課後の時間帯が多く、療育時間と重なる為、児発管が参加する事になっている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		関係機関とのやりとりは都度、必要に応じて行っている。地域交流はイベントや遊びなどを通して以前より増えてきた。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		保護者からLINEを通し、月間予定表をいただいたり、岡山市公式LINEにて登録した学校情報を随時入手、確認できるようにしている。家族支援としてのプログラムはないが、家族参加イベントとして講師をお招きし、相談できる機会を設けている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		5		放デイのみの為、就学前でのそのような機会は少なく、主に保護者からの聞き取りの他、担当のある相談支援専門員からの連絡、情報共有は時に数件ある程度。今後、就学前に検討を要する場合等、必要に応じて連携していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		5	現段階で障害福祉サービス事業所への移行の児童（生徒）はまだいないが、必要な時がくれば対応する。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		5		現段階ではできていないが、子どもの事をより深く理解し、よりよい支援に繋げるために今後は必要に応じてそのような機会を設けることは検討したい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5	学校のある平日の通常療育での交流は難しいが、長期休暇等において交流の機会を取り入れていきたい。	地域での交流については、今後関係機関と検討、調整ができれば実施していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3	FCや事業所内の研修やミーティング会議等と重なり、参加の調整ができない事もあり。	今後は業務等の調整がつけば可能な限り参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時に伝達事項含め、保護者と児童の様子に変わりないかなど日々、確認するよう心掛けている。お会いできない保護者様にはLINEや電話等を通してコミュニケーションを取るようにしている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5	個々に相談事がある場合は、面談の機会を通して子どもへの関わり方等について助言させてもらっている。	今後は、研修の機会も要望に応じて検討したり、親子で参加できるイベント等についても計画、実施していきたい。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時での説明のほか、保護者との連絡用ツールでの連絡や、HP、ブログ等で発信している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		気になる児童がいればこちらからも声かけをしている	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		5	仕事をされている方が多く保護者会等がなかなかできない為、親子参加のイベントなどを通じて職員、保護者同士が繋がれる場を設けている 現段階では保護者参加のイベントを企画し、それを通じて交流を図ってもらったり、地域の方にも参加頂けた。イベントとは別で要望があれば検討する。	家族参加のイベントに関してはお話を聴くことがメインとなることが多い為、兄弟児等も楽しんで参加できるイベントが企画していけたらと思う。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		SNS（インスタ・blog）等にて事業所の様子を随時発信している。前年度よりは更新も増やしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		保護者個々への通知書類等については、職員2名以上で必ずダブルチェックし、配布の際も再度確認し配布するよう努めている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	現段階では平日の余暇時間に近隣の方に来て頂き交流をしている。	流行の感染症等が落ち着き、安全面、衛生面等が確保できる状況になったら地域の方との交流を兼ねた企画を行いたい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		職員はいつでもマニュアルを確認できるようにしており、周知している。保護者には契約時に簡略に説明している。訓練においては避難訓練、机上訓練等を定期的に行っている。	緊急時に備えてそれぞれの役割などをしっかりと把握しておく為、意識して話しの場を増やしていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPの計画は策定済み、計画的に研修及び机上訓練等行っている。	今後も計画的に研修及び訓練等行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		利用開始前の契約時は勿論、随時モニタリングや面談等を通じて保護者から聞き取り、確認し全職員に共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	3	・これまで医師の指示書等の提示例は実際はないが、保護者へ食物アレルギーについて詳細の書面への記入及びヒアリングのもと対応している。おやつ等の提供時や調理、食事の機会等では細心の注意を払っている。対象児には個別で口にできるものを用意してもらっている。 ・外部の飲食店等利用時には、アレルギーに関して施設等に十分確認を取ったうえで保護者と連携することで、イベントへの参加も可能となっている。	今後、重篤な食物アレルギー等による症状を引き起こす可能性がある児童の利用がある場合は、保護者を通じて医師の判断を仰ぎたい。エビベン等常時携帯要する場合等でも、使用等については、医療資格者はいるものの、緊急時には全職員が対応できるようにしておく必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画の作成は現在作成中であり、支援室や戸外での活動では怪我や事故が起こらないように対策を講じたり、職員の配置を考えている。	今後、行政からの指示や通知等に従い、安全管理に関する研修等あれば参加したい。さらに状況の変化や必要に応じて見直しや検討を行いながら、十分な安全管理に努めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画は作成中の為、作成出来次第周知する予定。万が一、怪我等が生じた際の対応については契約時に説明をしている。その後も不明点等あれば必要に応じて、その都度説明を行っていく。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		事故等発生した場合は速やかに事業所内で共有し再発の防止策等検討している。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		内部研修のほか外部の研修やセミナーに参加している。概ね半年毎に検証を行っている。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		現在まで該当児童はいないが、保護者に対しては聞き取りやアセスメント状況によって課題等ある場合、契約時等に説明し、計画書に記載する予定。		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ミライク岡山南教室 (IT療育型 放課後等デイサービス)					公表日	令和8年2月28日		回収数(率)	37件(95%) (兄弟等重複4件)	
						利用児童数	令和8年1月6日 44名 (配布数39件)				
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応				
環境・ 体制 整備	1	29	5	3	0	・パソコンスペース、宿題やおやつスペース、自由遊びスペースに分かれているが、空間がつながりすぎていて、それぞれの活動に集中するには狭いかなという気がします。 ・楽しく過ごしているようで安心しています。	屋外での活動スペースは十分あるが、屋外での活動中は安全対策としてネット柵を講じ、送迎時の車の出入りの時は声かけや注意を促している。				
	2	33	2		2		賃貸の為、増改築等ができないが、過ごしやすい工夫はしている。 車いす等の使用には適していないのもあり、肢体不自由等ある児童の受け入れは今のところ難しい状況。				
	3	29	5		3		手洗い場があるトイレは支援室の外の下駄箱横にあり、構造上改築等が難しい為やむを得ない。				
	4	35	1		1						
適切な 支援の 提供	5	32	3		2	ご意見なし					
	6	35	1		1						
	7	35	1		1		普段の送迎時等では詳細は伝えきれないが、保護者から問われた時やモニタリング等で詳細を説明している。また利用日に実際に来所いただき見学して頂くことも可能である。				
	8	33	4								
	9	34	1		2						
	10	31	3		3						
	11	11	7	5	14		今後、保育園等の状況や意見を踏まえ、地域の子どもと交流する機会を検討していきたい。				
保護者 への 説明 等	12	36	1			ご意見なし					
	13	35	1	1							
	14	29	1	3	4						
	15	32	4		1		日頃は送迎時等でその日の様子など必ず伝えたり、LINE等でお知らせしたりしている。時間的に取れない場合もある為、個別で相談事があれば、後日面談等の機会を設けて話をしている。				
	16	32	3		2						
	17	36	2		3		児童については事前に職員間で情報共有して支援に当たり、保護者にもフィードバックするようにしている。				
	18	10	10	9	8		保護者同士の交流や、兄弟等参加できるイベントについては年数回計画を検討している。今後要望等も踏まえ検討及び実施していきたい。				
	19	28	4		5						
20	33	2		2							

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	26	3		8	ご意見なし	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35			2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	4	1	9	<p>玄関ドアが施錠されず、チャイムを何回鳴らしてもスタッフから反応がなく、2階まで上がって大きな声を出して、やっとスタッフが出てきたことがある。これが不審者だったら、と思うと不安が残った。「一階に誰かいるだろう」という思い込みでチャイムに対して対応しないのは怖いことだと思うので、対策を考えていただきたい。</p>	契約時に保護者への連絡ツールにて説明、周知は行っており、各種マニュアルも保護者が閲覧できるようにファイリングしている。閲覧しやすいよう、玄関周辺に棚等に設置予定。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	27	5		5		訓練等については毎回事前に保護者へ通知し、玄関付近にも掲示している。訓練時にはその日の利用児童に参加してもらっているが、参加できない児童については別途機会を設ける必要はあると思われる。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	26	4	1	6		不審者対策としては子どもの療育中は玄関は施錠し、インターホンについては2階事務室だけでなく、支援室の中にも聞こえる物を設置予定。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	26	5		6		事故や急病等発生時はマニュアル等に沿って迅速に対応している。手当等には主に現場の保育士及び、看護師・保健師資格のある児発管が対応している。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	35	2			ご意見なし	<p>一時的に登校や外出等への不安や抵抗感等による不調が強い児童に対しては、保護者と連絡、相談しながら対応している。 今後も児童が安心して通える場になるよう職員全員で努めていきたい。 一人一人が楽しんで通える事業所づくりを目指していきたい。</p>
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	34	2	1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	36			1		